

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176500880		
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・南中野		
所在地	〒337-0042 埼玉県さいたま市見沼区南中野1050-8		
自己評価作成日	令和2年9月27日	評価結果市町村受理日	令和2年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	令和2年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会資源を大切に考えており、今年コロナ禍の中ボランティアの方をお招き出来ておりませんがイベント時には地域の方々をお招きしております。散歩時には気さくに挨拶を交わせる関係づくりが出来ております。また自然に恵まれているので、畑の作物や花々から季節の移り変わりを感じられます。ご利用者様の自立支援を念頭にその方に寄り添った支援を充実させることを目指しています。ご家族様との信頼関係づくりも充実されています。職員が生き生きとした仕事出来る様に希望休が取れる環境が整っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR大宮駅東口よりバスで乗車17分「小松台」バス停下車、徒歩5分(約350m)、閑静な住宅街に位置している2002年に開所した3ユニットの施設である。同一法人が運営する介護付き有料老人ホームが隣接している。開所当時から職員と共に新しく加わった職員と力を合わせ、コロナウイルスの対策を講じながら日々業務を粛々と行っている。2020年6月より社名が「ALSOK介護株式会社」となり、ALSOKグループとして「安全・安心」のイメージアップに繋がっている。緑に囲まれ、施設前には樹齢250年の大銀杏の木があり、これから紅葉を楽しむことができる。今回、施設での自己評価はコロナ前の実績に基づくものであるが、訪問時に確認したことを外部評価として記載させていただいた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「アットホームなグループホームを目指す」という理念を踏まえご利用者様一人ひとりの趣味や嗜好を尊重しその人らしさを大切にしたい対応を心掛けています。	理念が入口に掲示されており、いつでも確認できるようになっている。会議などで振り返る機会をもち、職員全員で意識の共有を図り、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年町会の盆踊りに参加したりホーム行事にはボランティアの方々が来てくださる。また定期的に中学生の職場体験も受け入れている。また散歩時近所方よりお花を頂いたり等の交流をしている。	自治会に加入し地域との関りをもっているが、現在、新型コロナウイルスにより、行事等、外部との関りを制限しており、地域との交流の機会が減っているが、大家を通じて情報交換を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域・近隣の方々の急な見学や電話での問い合わせの際には、認知症などの理解をして頂けるよう十分に説明をさせて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に運営推進会議や家族会を開催しています。利用者様の様子やホームの運営状況等報告を行っています。その際意見交換を行い、サービスの質の向上・改善に繋がるように努めております。	1月に運営推進会議を開催したがその後はコロナウイルス感染予防のため開催できていない。毎月、市役所に行っているがその際には、運営状況を伝え、意見の交換を行っている。家族には毎月「一言通信」を郵送し、意見などの要望を募っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加を呼び掛けています。また適宜役所に訪問し、協力関係を築けるように努めています。	毎月、福祉課、介護保険課に立ち寄っており、コロナ関連の情報や研修に関する情報を得ている。施設内における転倒などの事故が発生した場合の報告は本社を通じて提出している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束について学び、話し合い注意喚起している。玄関のカギは防犯上施錠しているが、いつでも外出出来るようになっています。	身体拘束・虐待防止及び安全対策に関する委員会を設置しており、3つのフロア毎に毎月実施している。委員会で話し合う内容、項目は毎回、本社から提示され、それに基づき必ず行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会では虐待についても話し合いを行い、虐待を学ぶ機会としています。虐待を学び、知識を得る事で職員同士で注意をし防止となる様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	適切なアドバイスが出来るよう研修等で知識を深め活用出来るよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を取り説明を行い理解、納得して頂けるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族会時に意見を伺うように努めています。特に面会時やケアプラン更新時には意見交換を行い要望等運営に反映出来るように取り組んでいます。	現在、コロナウイルス感染予防として面会等を自粛して頂いており、家族から直接意見を聞くことが困難となっているため、書面を通じて意見を伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個別面談を行い職員一人ひとりの意見を出しやすい環境作りに取り組んでいます。	年2回、個別面談を行っているが、それ以外にもホーム長は常に職員に声がけをし、意見が言いやすいよう配慮している。職員からの相談や意見で可能なことは反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に一度の人事考課をしている。また資格制度や年に一度の昇格制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修の案内を掲示し、参加する機会を設けています。研修で学んだ知識や情報等は職員会議の場等で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣の介護付き有料老人ホームと合同でイベントを開催したり、お互いのイベントに参加を呼び掛けたりと交流の機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調時ご本人様より直接お話を伺い、不安・心配事・要望を把握し少しでも安心して頂けるような環境作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実調時ご家族様ともお話を伺い安心して頂けるに説明を行っています。入居後も連絡を取り合う事でより良い関係を築いていけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談には柔軟な態度で臨み必要としている支援を見極めるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や家事を一緒に行ったりと共に暮らす者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と情報を共有し共にご利用者様を支えていく関係を築きます。また家族の絆を大切にすることを支援します。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や馴染の方の来訪を歓迎しています。ご家族の協力の下、馴染の場所へのお出かけも出来るように支援しています。	現在、コロナウイルス感染予防により、面会や外出を制限しており、馴染みの人との関りができていない状況である。現状、家族による医療機関への受診のための外出のみとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良好なコミュニケーションがとれるように必要に応じて座席の配置を工夫したり職員が間に入り会話の橋渡しを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も電話や来館による相談に応じる用意が出来ていることを伝えており、必要に応じて連絡を取り合い出来る限り支援が出来るように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時ご本人の生活歴を始め、趣味や嗜好を聞き取りどのように暮らしていたか確認している。困難な場合でも表情や日常の様子から汲み取れるように努めご本人の立場になって検討しています。	利用者からの聞き取りや日々の会話などから希望や意向を引き出すようにしている。会話が困難な方は、職員間で「こんなことをしたら笑った、穏やかになった、怒った」等の情報を共有し、検討しながら思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様より今までの生活環境を聞き取り、入居後も生活環境が大きく変わらないように支援します。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子やバイタルチェックなどを行い現状の把握に努めご利用者様のペースで過ごして頂けるように支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスによりそれぞれ意見を述べ合って、皆で介護計画を作成している。必要に応じて臨時カンファレンスを設けることもあります。	毎月、モニタリングを職員間で行っている。計画書の見直しは6ヶ月毎に行っているが体調の変化など、状況に応じて随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送り等の記載により職員間での情報共有が出来るように努めています。毎月のカンファレンスで、サービスの見直し・変更等を検討しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状変化時やその時のニーズに合わせ柔軟な支援、サービスの多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	イベントの際には地域ボランティアの方々がイベントを盛り上げて楽しませてくれます。また月2回の傾聴ボランティアの方々の来訪を楽しみにしております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認契約を行っています。提携医とは24時間オンコール体制を敷いて連携を築いている。	入居前からのかかりつけ医の受診は自由に行うことができる。事業所には月2回、訪問診療及び訪問歯科があり、週1回の訪問看護と歯科衛生士の訪問がある。その他、眼科等の他科受診やペースメーカーの管理などの支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携訪問看護に状態を記録し情報を共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会にて様子を伺い、ご家族や看護師との情報交換を行ったり、相談員と連絡を取り合う事で連携強化に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のケアについては、契約時にホームの指針を伝え同意を得ている。看取り時は面談をまめに行いご家族の意向を再確認している。	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明の上、ターミナルケアを行っている。重度化して病院に入院する方もいるが看取りを行うこともある。職員に対して個別に看取りに関する指導を行っており、本社の行う研修も受けさせている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルに沿って全スタッフが対応を出来るように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っています。隣接の施設や地域の方々の協力体制が整っています。また親会社の警備会社にも通報が行く仕組みになっています。	今年度の訓練は10月22日に消防署立ち合いの避難訓練を行う予定で2回目は12月に夜間を想定した避難訓練をフロア毎に実施する予定である。地域との連携は大家に協力を仰いでおり隣接施設と協同して体制を築いている。	火災のための避難訓練の体制を整えており、水害はハザードマップ上、心配ないとのことだが、想定外の災害が日本各地で起きていることから、水害、地震、台風等を視野に入れ、より具体的な訓練の検討が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者様の様子や性格に合わせた声掛けや対応を行っています。職員間でも声掛けを意識し配慮しながら取り組んでいます。	利用者の居室に入るときはノックをし、プライバシーに配慮している。声掛けはご本人の身体状況や性格などに合わせて表現や声の大きさなど、適切な対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中常に自己決定が出来る機会を設けています。またご利用者様のの気持ちや表情にも注意し意思を汲み取れるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースを大切にしご本人の希望に沿った一日を過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の意思・希望を尊重した上でカットやパーマ・カラー等を行ったり、衣類も要望に応じて用意出来るように努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の一人ひとりに合った食事形態にしています。季節の特別メニューを楽しみにされ、食器拭き片付けを一緒に行っています。レクおやつは分担を決め一緒に作っています。	食事形態は常食が全体の3割程度で刻み、一口大、荒刻み、極刻みと、きめ細かな対応をしており、とろみ食も提供している。現在、ミキサー食の方はいないが、対応可能である。月に1~2回は手作りおやつを提供し利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量・水分摂取量を記録し、少ない方には声掛けや提供方法を工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医・歯科衛生士の指導の下毎食後に各利用者様に応じたケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成しトイレでの排泄を基本にご利用者様一人ひとりが自立に繋がる排泄介助に取り組んでいます。	一人ひとりのチェック表で排泄パターンを把握し、トイレでの対応を基本としている。その方に合った綿パンツや紙パンツ、パットを選択して頂いており、夜のみ紙おむつ対応をしている。日々、変化があるため職員間で常に話し合いをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療との連携を図り水分補給や乳製品の摂取などを行いスムーズな排泄が出来るよう支援しています。ご利用者様によっては体操を取り入れたりトイレでの踏ん張りやすいよう足置きを用意しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様の希望に沿って入浴が出来るように支援しています。拒否のある方には無理強いせず声掛け等工夫したり、季節のゆず湯やしょうぶ湯を提供している。	入浴は基本的に週2回のペースで支援を行っている。原則、午後に入って頂いているが、希望があれば午前や夕方の方の対応も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンに応じて安眠出来るように支援しています。また日中も体調を見ながら休んでいただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬情報ファイルを設けており、いつでも確認出来るようになっている。変更時は申し送りや会議で確認を徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様の得意分野や役割、楽しみなど活躍できる場を考え提供出来るように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出掛ける機会を設け四季を感じて頂いてます。季節行事等にはご家族様の協力を頂きながら出かけられるようにしたいと思っております。	従来は積極的に外出して頂いていたが、コロナウイルス対応によりしばらく外出制限をしている。最近、散歩を再開し、リフレッシュして頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からの許可があるご利用者様はご自分で管理されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話はいつでも使用出来るようになっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには季節を感じて頂けるような飾りを工夫しています。また空調にも気を付けています。	玄関、フロア入口はガラス張りで明るく、壁には季節の切り絵が飾られており、居心地よく過ごしていただけるよう配慮している。温度や湿度の空調管理に気を配っており、就寝時の温度の管理は夜勤者が行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は自由に過ごして頂けるようになっています。またその方の気に入る居場所を探し出し提供出来るように努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族やご利用者様の意向を聞きながら希望に沿った居室づくりに取り組んでいます。ご自宅に居るように使い慣れた物を持ち込んで頂き居心地よく過ごせるよう工夫しています。	全居室にはスプリンクラー、電動ベッド、寝具、防火カーテン、エアコン、チェスト、クローゼット、洗面台、照明が備え付けてあり、ご本人の着替えだけあれば生活できるようになっている。使い慣れたものなどの持ち込みも可能で仏壇を持ち込んでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を付け混乱がない様にしています。またタンス引き出しにはラベルを貼りご自身で何が入っているか分かりやすくしています。		

目標達成計画

作成日: 令和 2年 10月 29日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	38	ハザードマップ上、心配ない地域の為今まで水害の訓練を行っていないが、想定外の災害が日本各地で起きている事から、水害・地震・台風を想定した訓練が必要と思われる。	一つ一つ想定した災害に対しての訓練が定期的に行える。	年間行事に訓練日を取り組む。地域との協力体制を築けるように常日頃連絡を取り合う。また職員が勉強する機会を作り災害に対しての知識を身に着ける。	12ヶ月
2	49	ご利用者様一人ひとりの希望に沿った外出支援が出来ていない。	コロナウイルスが落ち着いたらご本人様のご要望に沿ってお好きな場所に行く事が出来るように支援する。	ご家族様や地域の人々と協力を得る事が出来るように関係性を築く。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。